

洞爺湖温泉

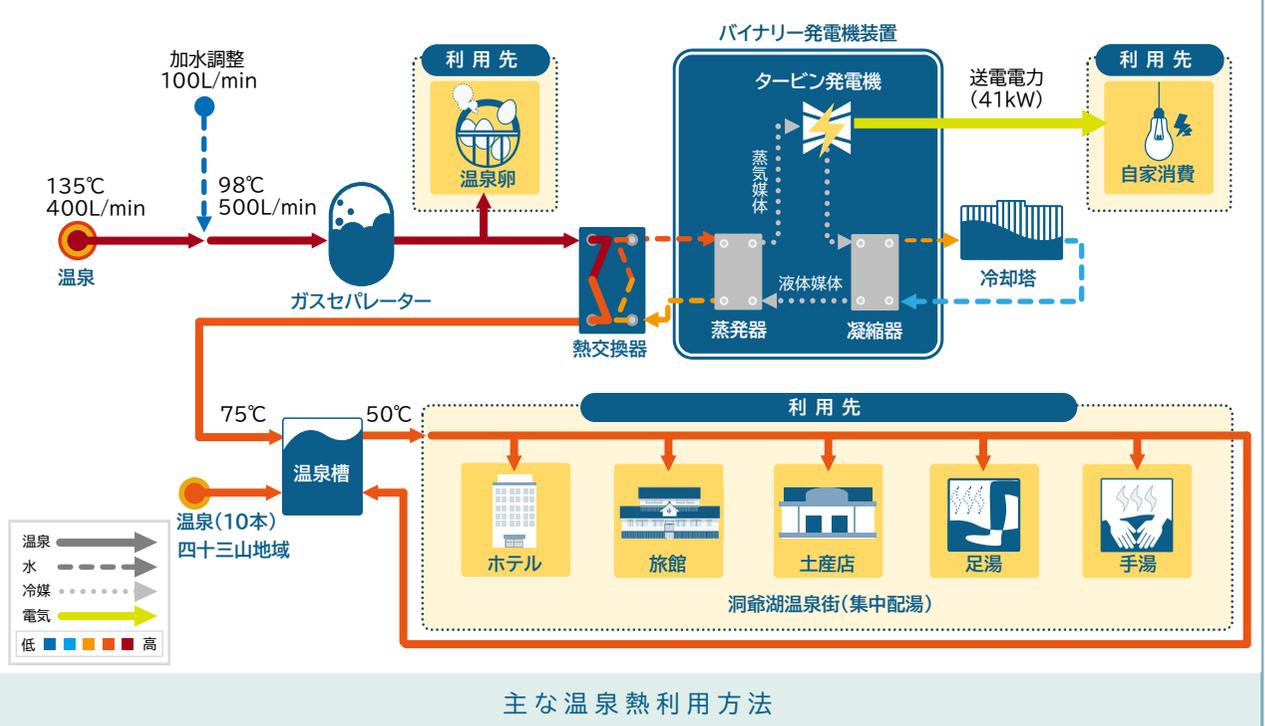


概要

地熱構造試錐井から高温地熱水(約135℃)を揚湯し、バイナリー発電や観光素材(温泉卵)の製造に利用している。バイナリー発電で生成された電力は、揚湯ポンプの電力に利用している。
 なおバイナリー発電後の温泉は、他の源泉から汲み上げられた温泉と一緒に温泉槽へと集められ、その後洞爺湖温泉街(ホテル、旅館、土産店、足湯、手湯)へ配湯されている。

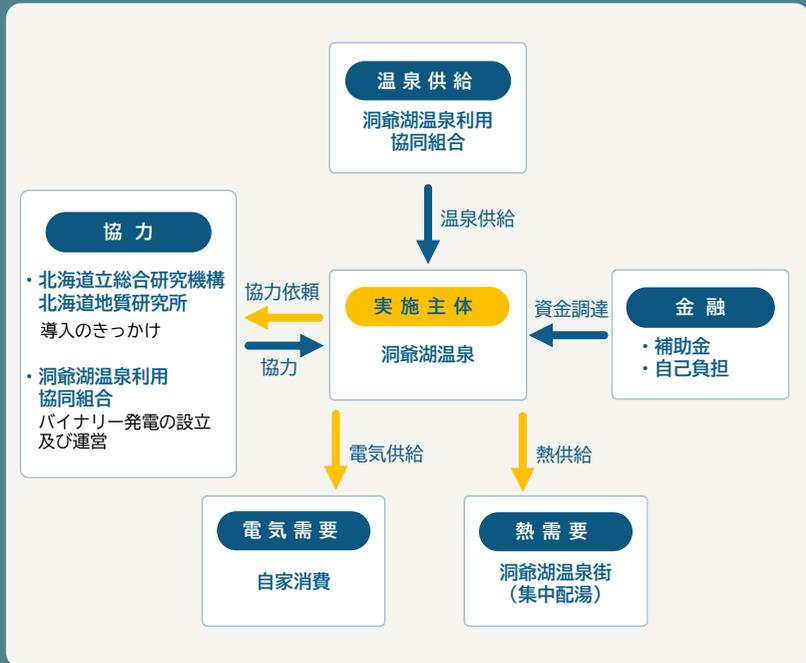


泉質	塩化物泉	CO ₂ 排出量削減効果	ランニングコスト削減効果
熱利用温度	98℃	152 ^{t-CO₂} /年相当削減 ※1	57%削減 ※1
利用温泉	新規温泉(一部)		
総事業費	5億5,000万円(一部補助金あり)		



※ 本事例は「平成29年度・30年度温泉熱等の有効活用等普及促進調査等委託業務」にて調査・整理した事例であり、掲載情報は調査当時のものであることから、詳細な状況は変更されている可能性があります。
 ※ 1: CO₂排出量削減効果、ランニングコスト削減効果は、ヒアリング先による推定値(ボイラー使用分削減による効果)です。

実施体制



事業検討の流れ

